

# 令和6年度 第1回運営協議会議事録

開催日:2024年7月24日水曜日 14:00~15:20

於 :プレゼンテーションルーム

出席者:

【委員(50音順、敬称略)】岡崎 裕、黒田 浩継、新納 孝啓、田中 正視、玉橋 唱平、林 洋平

【事務局員】長岡校長、松原事務長、田中教頭、宮武首席、井戸本首席

【学校関係者】各分掌長、学年主任、初任者

## 1 連絡及び報告事項

### (1)学校の現状について

- ・入学者:令和6年度は多くの学校で定員割れ。原因は中学校卒業生の年々の減少の要因も大きく旧9学区では令和3年~令和9年まで平均100名/年減少しており、令和10年度には200名/年減少。授業料無償化なども要因だが、一番の要因は少子化。
- ・本校は今年度で3年連続定員割れだが、令和7年度も新入生を募集。
- ・9月末の翔南祭(文化祭)では PTA もイベントを実施していただける。

### (2)スクールミッションについて

本校は普通科高校でありながら、30名程度が在籍している専門コース(ハートフルほいくコース)を擁するのが特徴であり、その特徴を強調する内容となっている。

#### 《質疑・応答》

- ・(岡崎氏)看護コースは看護の専門的な学習内容を学ぶような名称だが、理系という解釈で良いか。  
(教頭)その認識で間違いない。ハートフルほいくコースのような専門コースではなく、進路実績を鑑み、特徴を出すために意図的に名称を看護コースとしている。看護コースは、看護系の大学や専門学校を受験する生徒が多い現状を踏まえ、ミスマッチが起こらないように、看護職に向けたマインドを育てるのが目的のコース。高等学校で看護の資格を取れる学校は少ない。中学校向けの説明会でも、このことについて説明している。
- ・(岡崎氏)過去には工業系の生徒を輩出していたと聞いているが、現在の教育課程が理系の志向を持った生徒が志願することを妨げていないか。  
(教頭)妨げにならないよう配慮している。教育課程上は、理系の大学等に進学するための多様な科目を設置している。但し、看護コースという名称については、今後、生徒の進路希望が変わってくるのであれば、名称等については検討をする

### (3)問題行動調査結果の推移について

- ・問題行動とは、暴力行為(対教師、生徒同士)、器物破損、いじめ(数年前に定義変更、いじめの恐れがある段階で対応)、長期欠席(いわゆる不登校、年度内で30日以上、定義変更)、中途退学(転学ではない)、自殺も含む。
- ・全国的に自殺の人数は増加→実質%は増大。
- ・令和5年度はさまざまな項目で数字が増大。今年度の1年生は問題行動が増加しており授業中のトイレ退出(長時間)やいたずら、喫煙が増加している。このため、令和6年度も数字が増える見込み。
- ・いじめ行為の件数は減少→表面化していない可能性があり良いことかはわからない。
- ・昨年度重大事案(30日以上の欠席)が1件生起。
- ・長期欠席は3年生になっても減少しない傾向。
- ・不登校は、令和3年度~5年度にかけて増加し主な理由は学業不振。
- ・中途退学は文科省定義では他校転学は含まないため、実態は40~50名程度が離籍している。

#### 《質疑応答》

- ・(岡崎氏)転入と即日編入との違いは?  
(教頭)一旦高校籍がなくなる場合、履歴書に「退学」と記録される。年度末最終日に本校に在籍していれば、その年度の単位習得は認められるため実質的にはほぼ変わらない(教頭)
- ・(玉橋氏)不登校の理由は複数回答が可能となっているか?

(教頭)はい。但し文科の設問がここ5年間毎年のように変わり統合されたり理由からなくなったりしているため最も近いところに入れている。

## 2 協議事項

令和6年度使用教科書選定理由について

### (1)説明事項

- ①数学Ⅰ、数学A、文学国語、地理総合、世界史探求については、次年度よりより平易な内容の教科用図書に変更する。理由は、入学生の学力層の変化。
- ②新学習指導要領が次年度からすべての学年に適用されるため、特に3年について新規の選定を実施
- ③芸術Ⅲが必修になるためそれに伴い教科書を選定。

#### 〈質疑応答〉

- ・(玉橋氏)教科書選定の流れを把握していないが、ベネッセの診断テストでは今年の1年生は過去3年で比較すると国語が向上している。何を基準に選定しているのか？
- ・(首席)例えば数学科では、新入生に授業を始めた際にも四則演算が難しい生徒が増えている。加えて定期テストの結果もあるが、授業をしている印象からそういった面をカバーするため教科書の変更はやむを得ない。

### (2)令和6年度学校経営計画について

- ・めざす学校像、中期的目標は数値を更新したのみで昨年度から変更なし
- ・「確かな学力」「自己実現」「自律心」「人間性をはぐくみ」「働き方改革」がキーワード
- ・新学習指導要領を見据えたアクティブラーニング、相互活動のアクティビティとハートフルまいくコースの活動を外部に発信
- ・個人を責めるのではない同僚性の高い組織づくりと長時間労働教員の減少

#### 〈質疑応答〉

- ・(林氏)体育祭、翔南祭の地域住民の参加を奨励はPTAとしても生徒と一緒に参加しているが、地域住民の参加は？  
(校長)体育祭は時期的な問題で招待していないが、翔南祭は未就学児や高齢者施設を招待を考えている。安全上の配慮もある。昨年度より同窓会による出店を実施。
- (林氏)昨年初めて参加し、生徒以上に楽しめたが、セキュリティ問題もあるので教員だけに任せるのではなくPTAも協力したい。
- ・(岡崎氏)国際理解交流は、海外学校との交流、校内で英語を用いて発表するケースがある。大阪府がSDGsビジョンを出しているが、国際交流はどちらかといえば特別活動に通ずるもので、教科教育との距離感があるのではないか？福祉と国際交流なら、国際交流も教科教育としてカリキュラムマネジメントを行う必要がある。学校教育は一部の部分を切り取った特徴ではなく、学校を挙げての空気感、すべての教職員が関わっていく必要がある。大阪万博も大阪湾で実施されるため、りんくうならではのオリジナルカリキュラムがあってもアピールできるため、定員割れに対する直接的な策にもなり得るのでは？  
(校長)学校全体として取り組めるように、総合的な探究の時間に取り入れるなど改善をはかる。
- ・(黒田氏)授業アンケート授業満足度が令和3年度から10%程度ずつ急増したため、すでに令和8年度目標を達成していて素晴らしい。急激に伸びている要因は？今短大でアンケートを実施すると、泉州地域出身者ではアルバイトなどで外国人とのつながりを持っているため、身近な接点から多文化共生を考えると、高校生とどのように関わっているか？地域に信頼される学校が泉南地域の拠点となる学校として必要。地域から信頼されるためには学校に通うことが楽しいと思えるようにする必要がある。不登校生徒にとって楽しい学校にする必要がある。大学の場合は1/3の欠時数を超えてはいけな。学校が楽しい場所にする必要がある。  
(校長)赴任した令和3年当時、生徒を静かに座らせる、書くもの書かせて回収することを理想とする教員が半数。現在は生徒とのキャッチボールを行える教員が増えた。One Weekなどを活用した教師とのやりとりも行っている。多文化共生は、スペイン語を話せる本校NETが中学生にアテンドしたことで入学につながった。こういったことが日常になっていこう。

- ・(林氏)下校指導にPTAとして参加したが、先生から「さようなら」と声を掛けているのが、先生の方が気を使っている印象。学校は勉強することも大切だが、大人と子供の間、子供から大人になる場所なので、社会に出る前のいろんな大人との関わりの中で成長してほしい。
- (校長)学校全体で社会に求められる人材育成をめざしていきます。